

県民モニター「第1回アンケート調査」結果概要

1 調査概要

- (1) 調査テーマ：「少子対策について」
- (2) 調査対象者：県民モニター479名
(6月29日までの登録者)
- (3) 調査期間：平成18年6月29日(木)～7月11日(火)[13日間]
- (4) 調査方法：県ホームページ上のアンケートフォームに入力
- (5) 回答者数：353名(回答率73.7%)
- (6) 自由記入欄：9箇所設定(回答者の93.5%がいずれかに記載)

参考 - 対象者及び回答者属性

	対象者	回答者	回答率
総数	479	353	73.7%
(性別)			
男性	286	226	79.0%
女性	193	127	65.8%

当調査は、公募によってモニターになっていただいた方に対して、兵庫県政に関する特定のテーマについてアンケートを行ったものです。無作為で抽出した方を対象とした統計調査ではありません。

2 調査結果の概観

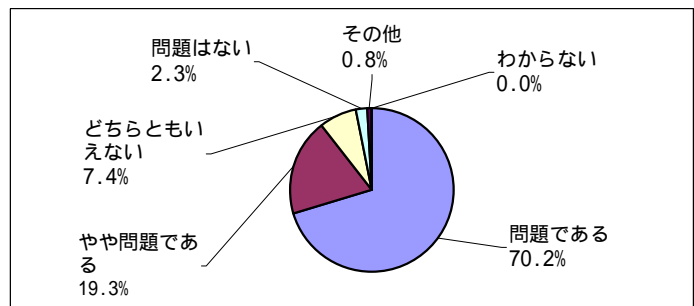
- ・回答者の約9割が少子化は「問題である」(「やや問題である」を含む)としており、関心は高い。また、その影響については、約8割が「社会の活力が低下する」と回答している。
- ・育児には父親の参加が必要との回答(「時間の許す範囲内で」を含む)が9割を超え、個人・職場・社会全体での『意識改革』がそれぞれ必要との意見が多い。
- ・地域における子育て支援に「参加したい」との回答が約6割あり、地域での取り組みの参加意欲がうかがえる。
- ・県の少子対策について、将来親となる世代への支援では「家庭の大切さや子育ての喜びなどの意識の醸成・啓発」が4割台半ばを超え、子育て中の親への支援では「多様な保育サービスの充実」が3割超とニーズが高い。
また、子どもが安全にすこやかに育つための支援では「保健医療体制の充実」と「仲間との交流や体験学習」が必要とされており、それぞれ3割台で並んでいる。
- ・アンケート結果は、今後、「ひょうご子ども未来プラン」を推進するための少子対策を検討する中で参考とする。

3 調査結果

少子化に対する意識

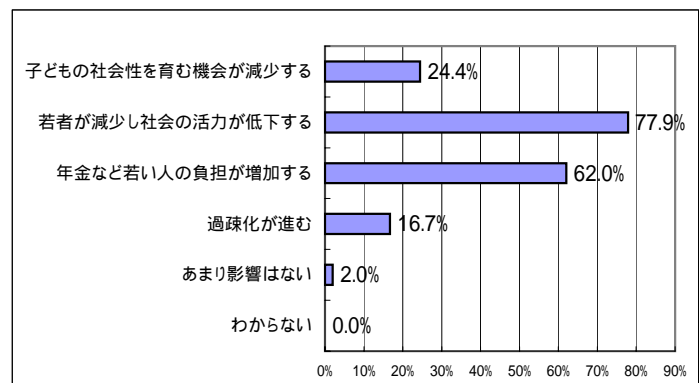
Q1 少子化についてどのように思うか
(1つ選択)

- (1) 問題である 70.3%
- (2) やや問題である 19.3%
- (3) どちらともいえない 7.4%
- (4) 問題はない 2.3%
- (5) その他 0.8%
- (6) わからない 0.0%



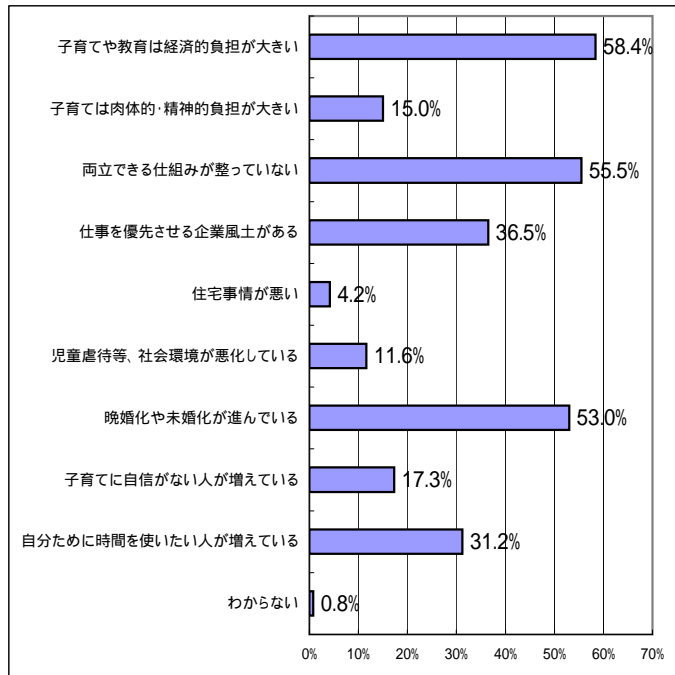
Q2 少子化の影響についてどのように考えるか(2つ選択)

- (1) 子どもの社会性を育む機会が減少する 24.4%
- (2) 若者が減少し社会の活力が低下する 77.9%
- (3) 年金など若い人の負担が増加する 62.0%
- (4) 過疎化が進む 16.7%
- (5) あまり影響はない 2.0%
- (6) わからない 0.0%



Q3 少子化の要因は何だと思うか
(3つ選択)

- (1) 子育てや教育は経済的負担が大きい 58.4%
- (2) 子育ては肉体的・精神的負担が大きい 15.0%
- (3) 子育てと仕事を両立できる仕組みが整っていない 55.5%
- (4) 仕事を優先させる雇用慣行や企業風土がある 36.5%
- (5) 住宅事情が悪い 4.2%
- (6) 児童虐待や子どもが被害者となる犯罪等、社会環境が悪化している 11.6%
- (7) 晩婚化や未婚化が進んでいる 53.0%
- (8) 子育てに自信がない人が増えている 17.3%
- (9) 自分の能力発揮のために時間を使いたいと思う人が増えている 31.2%
- (10) わからない 0.8%



Q4 Q3以外で考えられる要因(自由記入)

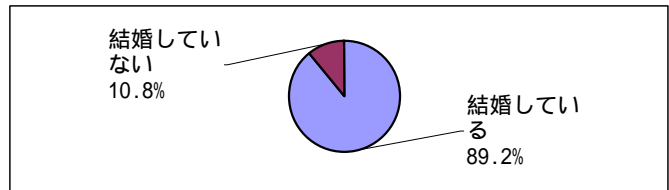
- 1 回答者の41.1%にあたる145人が記載
- 2 主な記載内容は以下のとおり

- ・子どもや結婚に対する意識が変化し、自分の楽しみを優先する人が増えている 42件
- ・若い人にとって出産などの経済的な負担が大きすぎる 16件
- ・核家族化が進んでいる 15件
- ・雇用形態や就労条件等、労働環境に問題がある 14件

育児について

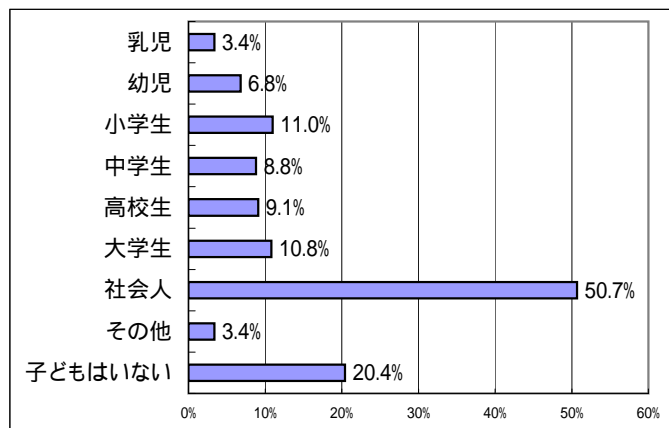
Q1 結婚しているか
(1つ選択)

- (1) 結婚している 89.2%
- (2) 結婚していない 10.8%



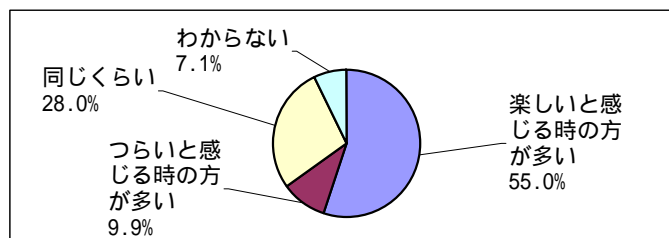
Q2 子どもがいるか
(当てはまる項目を選択)

- (1) 乳児(2歳未満) 3.4%
- (2) 幼児 6.8%
- (3) 小学生 11.0%
- (4) 中学生 8.8%
- (5) 高校生(高専生) 9.1%
- (6) 大学生・専門学校生(短大・大学院含む) 10.8%
- (7) 社会人 50.7%
- (8) その他 3.4%
- (9) 子どもはいない 20.4%



Q3 子育てをして感じる事
[未経験者は想定して回答](1つ選択)

- (1) 楽しいと感じる時の方が多い 55.0%
- (2) つらいと感じる時の方が多い 9.9%
- (3) 同じくらい 28.0%
- (4) わからない 7.1%



Q 4 子育てをしていてどのようなときに楽しいと感じるか。
また、どのような点に負担感や不安を感じるか。
(自由記入)

- 1 回答者の85.8%にあたる303人が記載
- 2 主な記載内容は以下のとおり

楽しいと感じるとき (計175件記載)

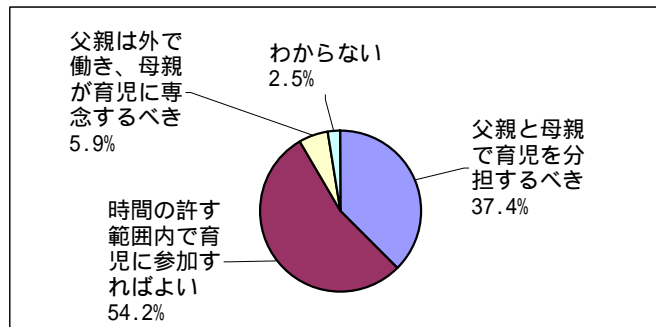
- ・子どもの成長を感じる時 85件
- ・会話や笑顔など、子どもとのふれあい・団らん 66件
- ・子どもを通じて多くの人とふれあうこと 13件

負担感や不安を感じる点 (計189件記載)

- ・教育費や医療費等、経済的な面 62件
- ・社会情勢や生活環境の悪化 31件
- ・学業や就職、結婚、人間関係など、子どもの将来 18件

Q 5 父親の育児参加について考えに近いものはどれか (1つ選択)

- (1) 父親と母親で育児を分担すべき 37.4%
- (2) 時間の許す範囲内で育児に参加すればよい 54.1%
- (3) 父親は外で働き、母親が育児に専念すべき 5.9%
- (4) わからない 2.5%



Q 6 父親が育児に参加するためにはどのようなことが必要か (自由記入)

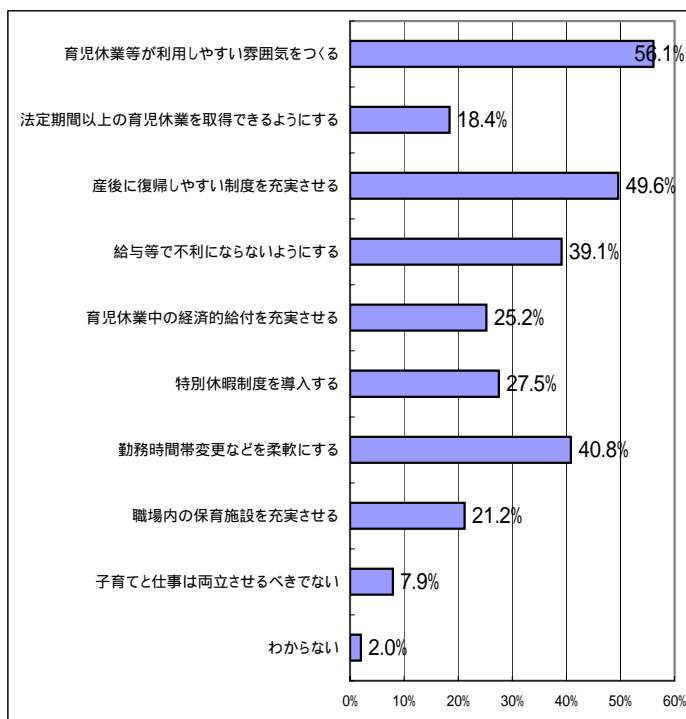
- 1 回答者の85.3%にあたる301人が記載
- 2 主な記載内容は以下のとおり

- ・勤務時間を柔軟にしたり残業を無くすなど、職場の理解が必要 78件
- ・男性 (父親自身) の意識改革が必要 60件
- ・社会全体が仕事を優先する意識を変える 47件
- ・育児休暇をとりやすくする 42件

職場や地域における支援について

Q 1 子育てと仕事の両立のため職場においてどのような取り組みが必要か (3つ選択)

- (1) 育児休業等の制度が利用しやすい雰囲気をつくる 56.1%
- (2) 法定期間以上の育児休業を取得できるようにする 18.4%
- (3) 産後に職場復帰しやすい制度を充実させる 49.6%
- (4) 育児休業取得者が給与や地位等で不利な扱いを受けないようにする 39.1%
- (5) 育児休業中の経済的給付を充実させる 25.2%
- (6) 子どもが病気等の時のための特別休暇制度を導入する 27.5%
- (7) 育児中の者の勤務時間短縮や勤務時間帯変更などを柔軟にする 40.8%
- (8) 職場内の保育施設を充実させる 21.2%
- (9) 子育てと仕事は両立させるべきでない 7.9%
- (10) わからない 2.0%



Q 2 Q 1 以外で必要と思う取り組み内容 (自由記入)

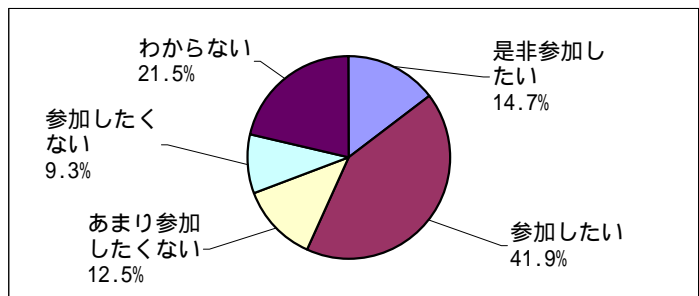
1 回答者の35.1%にあたる124人が記載

2 主な記載内容は以下のとおり

- ・育児休暇や特別休暇など、今以上に休暇制度を充実させる 17件
- ・子育て中の各種手当や給付金の増額など、経済的な支援を行う。 14件
- ・公立や企業内保育施設を増やし、保育サービスを充実させる 14件
- ・ワークシェアリングの導入など、就業形態を柔軟にする 10件

Q3 地域における子育て支援に参加したいか
(1つ選択)

- (1) 是非参加したい 14.7%
- (2) 参加したい 41.9%
- (3) あまり参加したくない 12.5%
- (4) 参加したくない 9.3%
- (5) わからない 21.5%



Q4 Q3で(3)(4)を選択した人に対して、
選択した理由(自由記入)

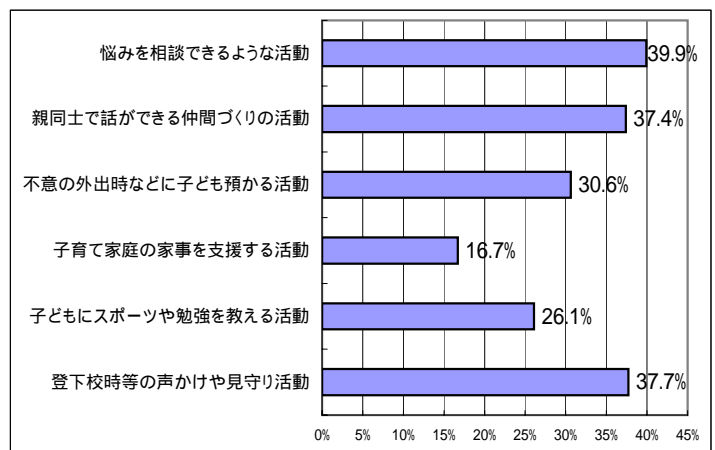
1 回答者の22.9%にあたる81人が記載

2 主な記載内容は以下のとおり

- ・自分の家に対象となる子どもがいないから 18件
- ・自分には向いていないから 14件
- ・地域による子育て支援は必要ないから(子育ては親がするもの) 12件
- ・時間的な余裕がないから 10件

Q5 地域の人々による子育て支援として、
今後、何が必要か(2つ選択)

- (1) 子育ての悩みを相談できるような活動 39.9%
- (2) 親同士で話ができる仲間づくりの活動 37.4%
- (3) 不意の外出時などに子どもを預かる活動 30.6%
- (4) 子育て家庭の家事を支援する活動 16.7%
- (5) 子どもにスポーツや勉強を教える活動 26.1%
- (6) 登下校時等の声かけや見守り活動 37.7%



Q6 Q5で挙げた以外に必要なと思われる内容(自由記入)

1 回答者の25.5%にあたる90人が記載

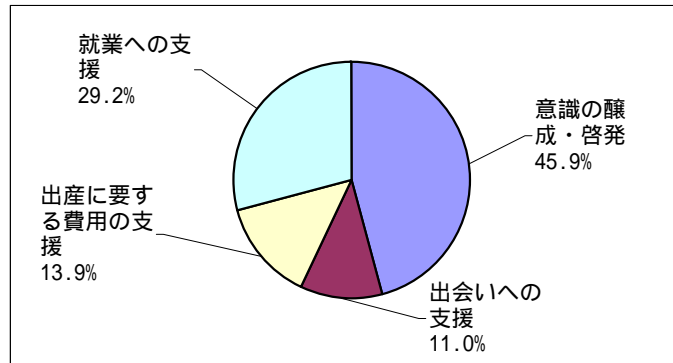
2 主な記載内容は以下のとおり

- ・子どもから大人までが共に参加できるサークルや集いの場、行事等を設ける 17件
- ・自治会等を活性化し、地域住民の連帯感や取り組みを広げる 12件
- ・保育に関するサービスを充実させる 12件
- ・取り組みへの参加方法など、住民への情報提供や広報を充実させる 7件

県が取り組む少子対策について

Q 1 「将来親となる世代への支援」として、最も必要と思う項目(1つ選択)

- | | |
|--------------------------------|-------|
| (1) 家庭の大切さや、子育ての喜びなどの意識の醸成・啓発 | 45.9% |
| (2) 結婚相手にめぐり会うための出会いへの支援 | 11.0% |
| (3) 不妊治療や妊婦健康診査など、出産に要する費用の支援 | 13.9% |
| (4) 若者が経済的に自立し、家庭を持てるような就業への支援 | 29.2% |



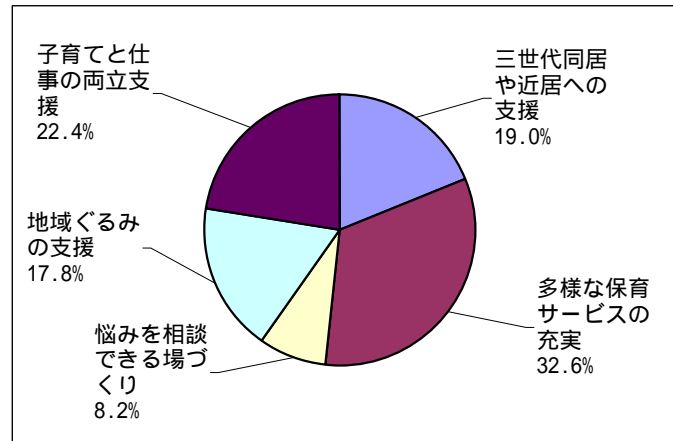
Q 2 Q 1 で挙げた以外に必要なと思われる内容(自由記入)

- 1 回答者の23.2%にあたる81人が記載
- 2 主な記載内容は以下のとおり

- | | |
|---------------------------------------|-----|
| ・子育ての楽しさや暖かみを感じることができるような施策を行う | 26件 |
| ・経済的な支援を行う(結婚しない人には負担を増加する等、支援制度を見直す) | 17件 |
| ・急なときに仕事を休めるような雇用環境や制度をつくる | 8件 |
| ・学校の授業で、道徳の教育などを実施する | 5件 |

Q 3 「子育て中の親への支援」として、最も必要と思う項目(1つ選択)

- | | |
|---------------------------------------|-------|
| (1) 祖父母との三世同居や近居への支援 | 19.0% |
| (2) 親の就労形態に対応した多様な保育サービスの充実 | 32.6% |
| (3) 子育ての悩みを相談できる場づくり | 8.2% |
| (4) 高齢者による子どもの見守りや預かりなど地域ぐるみの支援 | 17.8% |
| (5) 子育て中でも働き続けやすい職場環境づくりなど子育てと仕事の両立支援 | 22.4% |



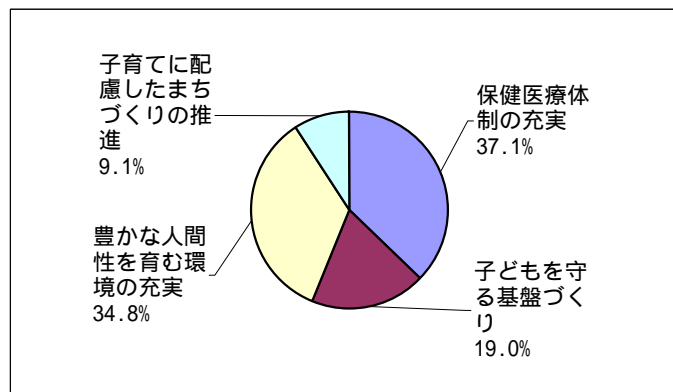
Q 4 Q 3 で挙げた以外に必要なと思われる内容(自由記入)

- 1 回答者の15.9%にあたる56人が記載
- 2 主な記載内容は以下のとおり

- | | |
|-----------------------------|-----|
| ・税制での優遇など、経済面での支援を増やす | 10件 |
| ・高齢者を含む地域の人々が積極的に育児に関わり支援する | 9件 |
| ・保育施設を増やし、保育サービスを充実させる | 9件 |
| ・三世同居の促進やこれらの世帯への支援を行う | 6件 |

Q 5 「生まれた子どもが安全にすこやかに育つための支援」として、最も必要と思う項目(1つ選択)

- | | |
|------------------------------------|-------|
| (1) 産婦人科医の確保や小児救急医療など、保健医療体制の充実 | 37.1% |
| (2) 児童虐待防止や登下校時の安全対策など、子どもを守る基盤づくり | 19.0% |
| (3) 仲間との交流や体験学習など、豊かな人間性を育む環境の充実 | 34.8% |
| (4) 子連れで安心して外出できる子育てに配慮したまちづくりの推進 | 9.1% |



Q 6 Q 5 で挙げた以外に必要と思われる内容(自由記入)

1 回答者の19.8%にあたる70人が記載

2 主な記載内容は以下のとおり

- ・ 地域で子育てを支援するため、地域住民が気軽に交流できるようにする 13件
- ・ 小児科の数を増やすなど、医療機関を充実させる 10件
- ・ 子どもが安心して遊べる場所や環境を整備する 9件
- ・ 子育てに関わる親や親の世代に対する教育を行う 7件